

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171300171		
法人名	医療法人社団翔仁会		
事業所名	グループホーム雪ぼうし		
所在地	北広島市輪厚704番地31		
自己評価作成日	平成24年9月28日	評価結果市町村受理日	平成24年10月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。 基本情報リンク先URL		http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kan1=true&JigyosyoCd=0171300171-00&PrefCd=01&VersionCd=022
---	--	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 24年 10月 17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

有限会社 ふる

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	作り上げた理念に沿って生活できるよう心掛けています。理念の共有と意識付けのため、朝の申し送り時に復唱し各所に掲示している。会議やミーティング時には、理念に沿ったケアが実践されるよう話し合っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会しており、地域行事の際は声を掛けていただいているが、参加の頻度は減っている。立地上ご近所さんがいないため交流がない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議に参加し情報提供している。また、北広島市キャラバンメイトとして、小学校5年生に認知症について講座を行った。町内の老人クラブで認知症の勉強会を実施した。実習生や見学者の受け入れも積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期開催し、ホームの活動報告を中心にを行っている。参加されている地域の方との意見交換を行い、提案があれば検討しサービスの向上につなげている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	北広島介護サービス連絡協議会のグループホーム部会に市の担当者に出席していただき、積極的に情報交換している。日頃から連絡を取り合える関係が築けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、日頃の声かけから注意意識を高めている。玄関の施錠に関しては、見守りや関わりでの対応が困難であり、ユニット入口自動ドアは電子錠にて施錠させていただいている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修会に参加している。日々声かけから意識するようにしているが、日々の関わりを見直し、不適切なケアについて考えるようにしていきたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会があれば参加し学ぶ機会を持っている。成年後見制度については、一部利用者が活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用料金や医療連携、ケアの方針等の内容を家族に説明し、ご家族の質問を受けながら理解・納得を図り、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で利用者が思っている意見や不満、苦情など汲み取れるよう意識している。家族とは、何でも言っていただけの雰囲気作りに留意している。意見箱の設置や、苦情受付のFAX番号をお便りに掲載しているが、意見や苦情はない。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とコミュニケーション図り意見等を汲み取るようにしている。また、申し送りや会議において職員の意見を聞く機会を設けている。ユニットリーダーは職員から意見や提案があった場合、管理者に報告し会議等で検討し、サービスの向上に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標の設定と、定期的な個人面談を実施し、やりがいをもって働けるよう努めている。日頃から管理者は職員とコミュニケーションをとるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は確保しているが、参加率は低く経過している。個人目標を設定してからは参加が増えたが、今後も意欲向上に向けた取り組みをしていきたい。研修後の伝達講習が実施できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北広島市介護サービス連絡協議会グループホーム部会を年4回実施し管理者が集まり情報交換をしている。また、部会で企画したグループホーム間での見学交流を実施した。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後は、本人の思いを汲み取れるよう話をよく聞き、要望に応えられるよう職員間で意思統一を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時から、家族の困っていることや不安な事を聞くようにしている。入居後も面会時や必要時連絡をしたり、家族との信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、本人と家族が何を必要としているのかを把握し、他サービスの利用も含めた対応をしている。法人内の相談員とも連携し対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者一人ひとりに合わせたコミュニケーションを図り、台所仕事など一緒にしたり、お茶を飲みながら談笑し、暮らしを共にするもの同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族の関係に配慮し、入居者が思いなど伝えられない部分は代弁し伝えている。日ごろの状態など面会時や月一回のハガキでお知らせし、電話でも連絡や相談をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきた馴染みの人とは、関係が途切れないよう配慮し、気軽に面会に来ていただけるよう支援しているが来訪の頻度は少ない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係をよく理解し、円滑にいかない時は職員が間に入り調整し、困っているときは職員が寄り添って、心身の状態や感情の変化、言動などを注意深く見守るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居後、時々お見舞いし声かけを行っている。家族も同様にお見かけした時は情報交換している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に日頃の思いや楽しいこと等聞き、伝えられない方には日頃の行動の把握に努め、職員で情報交換し検討している。家族にも希望を聞いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人と家族から聞き取りした生活歴や、馴染みの暮らし方を職員内で情報共有し、入居後も継続しその人らしい生活が送れるよう努めている。センター方式を活用したアセスメントはできていない		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活の様子を見守りし、気づいたことを申し送り、会議で話し合い、職員全員が把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議やミーティング時、職員間で情報と意見の交換を行い検討している。場合によっては主治医や看護師に相談している。本人と家族の希望を聞き介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケア記録に記載し、個別チェック表(バイタル表・排泄表)も活用して、いつでも職員が確認できるようにしている。職員は情報を共有し、記録に基づいた介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の病院・老健・有料老人ホームと連携しながら、本人と家族の要望に配慮し、状況に応じ病院受診や入院時の早期退院などの支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア受入れを行っており、傾聴や歌・踊りなど楽しんでいただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居相談時かかりつけ医を併設病院に移していただくことを本人と家族に同意していただいている。また、利用者や家族の希望に応じた受診もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院の看護師が利用者の状態を把握しており、情報を共有しながら適切な受診ができるよう支援している。また、非常勤の看護師が健康管理や、観察のポイントなど指導している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師・看護師との連携に努め、利用者と家族とも十分に話し合い入院している。入院後は担当医師や病棟看護師と連携し早期退院に向けた対応に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、重度化と看取りについての指針を説明し同意していただいている。看取りの実績はないが、医師・看護師と連携し、本人と家族とも十分に話し合いを行い対応を考えていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って行動できるよう備えている。併設病院との連携も取れており、緊急時の連絡先をわかりやすい場所に掲示している。初期対応の訓練が不足している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施し、内1回は消防の立会いのもと夜間を想定した訓練を行った。災害時の地域との協力体制は、運営推進会議で議題としたが、体制を築くまでは至っていない。運営推進会議に一度消防職員に参加していただいた。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応は日頃から意識し、言動や表情を観察し、その状況に合わせ対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の希望や訴えが何なのか、引き出せるよう表情や仕草などで把握している。食べたいものや入浴の希望など聞いて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ、レクや家事等を希望に沿って支援している。利用者同士でオセロをしたり、職員も一緒に歌を歌ったりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣は本人の希望で行っており、職員は必要時手伝っている。自己決定できない時は、気持ちを汲んだ支援を心掛けている。月一度の訪問美容もあり、希望に沿って毛染めなどにも対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物の希望を聞きながら献立を考えている。食材の準備や盛り付け、片付けも共に楽しみながら行い食事と一緒にしている。一緒に畑で収穫したものも食材としている。出勤寿司やケーキで楽しむ企画もしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのよいメニューを考え、個人の咀嚼や嚥下の状態や、食べる量を考慮し配膳している。水分は一日1,400mlを確保できるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前は実施できているが、毎食後はできていない。本人の力に応じたケアを心がけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、体調もみながらトイレ誘導している。訴えられない方には、パターンをよく把握し誘導している。トイレ誘導の困難な方はオムツを使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材は繊維質の多いものや、野菜を多く摂取するようにしている。家事や散歩・体操などで身体を動かすようにしている。下剤の服用は看護師と相談しながら服用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は希望に沿っている。排泄で汚染した際は夜間でも対応している。入浴に応じられないときは、時間を空けて声かけし、会話の中できつかけを作ったり雰囲気作りに配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望や体調を考え、午前・午後と休息が取れるようにしている。寝付けない方や途中目覚めた方には食卓で飲み物をすすめ、一緒に過ごすようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の個人別に処方箋をファイルしている。また、薬名や用量などを書いたものを、職員がよく見える場所に貼って確認しやすくしている。服薬時は飲み込むまで確実に服薬されたことを確認している。薬の変更時は症状の観察や記録・申し送りを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所の片付けや洗濯物たたみ等をしていただいている。また、オセロやカルタ・歌を楽しんだり、カレンダー作りに協力していただいている。外食など度々出かけ気分転換をされている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月行事を企画し、回転寿司やホテルバイキング、ドライブなどで外出している。また、ホーム周辺の散歩は希望に沿って行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に外出する機会が少なく、お金を使うことはほとんどない状態である。本人の安心のため、家族の理解を得て少額のお金を持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人等に電話や手紙の希望があれば、その方の出来ない部分を支援している。また、携帯電話を持っている方もおり、使用法でわからない部分は支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓から外の景色が良く見えて、季節を感じることが出来る。不快な音や光がないよう、ドアの開閉やカーテン等で配慮している。手作りカレンダーや絵画を飾り雰囲気作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓以外にもソファや椅子を置いて、一人でくつろいだり、利用者同士で談笑できるスペースを作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と相談し、今まで使い慣れたものや、家族の写真などを持ってきていただき、落ち着いて生活できるよう配慮している。誕生日等のプレゼントや、利用者の作品などを置いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごせるよう、各所に手すりを設置している。トイレの表示を大きくしたり、自室には表札を付けている。視力に障害のある方の表札は、大きい文字にしてわかりやすくしている。		